



積み木やきんちゃく、わらじなど、自分ができるもの、やりたいものを制作しています。木製の長いすにはてんだあはうずの焼き印が。

**ボランティア**



ひとりで悩んで  
苦しんでいる人たちに  
ぜひ知ってもらいたい。  
そんな思いで  
活動している人がいます。

**ボランティアとの出会い**  
心あたたまる空間で  
感じたメッセージ。

**生活から芽生える心**

「わたしの母はわたしが5歳になる前に亡くなりました。記憶に残っている母はすでに寝たきりで、移動するのも困難でした。わたしにつかまっていたよ、ありがとう」と肩を貸してトイレまで行っていたのを覚えて「わたし」と振り返るボランティア、アグルーブ、むぎの会」の代表、白石眞英子さん(伊方)。



Maeko Shirashi  
白石眞英子さん(伊方)  
しらいし まえこ「むぎの会」  
「てんだあはうず」の代表。障がい者間  
をとおして、誰もが住みやすいま  
ちづくりを目指し活動中。

和やかなムードで作業する白石さん(写真右)  
「ここでは時間がゆっくりと流れるんですよ。」

を放っておけないのは、幼いころの母の記憶があるからだと思えます。むぎの会は、発足当初から障がい児をもつ親たちの支援活動を続けています。就学前までは地元の保育園に通っている子も、いつしか養護学校をすすめられ、地元の小学校に通わせたい」という親の希望は、なかなか受け入れてもらえないのが全国的な現状だそうです。

「近所の友達といるときは我が子の笑顔を一番知っているのは親なんです。その子たちと同じ学校に通えるように、何度も教育委員会にお願いしました。そんな白石さんらの強い要望により、学校は障がいのある



障がい児・者地域交流会「てんだあはうず」の活動は、福智町ほのぼの館で毎月第2土曜日。障がいのある人、ない人とも交流できる場となっています。

2人の児童を受け入れ、現在は先生や児童全員で向き合っています。「その子は名前を呼ばれて手を挙げるのにも時間がかかるんです。一生懸命手を挙げようとしているのを、クラスの子どもたちはずっと見守って応援してくれます。どんなに時間がかかっても子ともたちは待っている。それが一緒に生活していることで芽生える心なんです。障がい者ひとりの個性としてとらえられるかどうかは、どれだけ一緒に生活しているかで変わってきます。みんな同じ人間だ、一緒に生きているんだ、って感じるのよ。やはり実際一緒に生活していないと難しいですよ。」

**それぞれの個性を見つける**

子どもの障がいに責任を感じ、つらい思いを抱えながら毎日泣いて過ごす。これは障がい児をもつ親の誰もが通る道です。悩んでいても誰に言えはいいか分らない、言っていないのかどうか分からないという人はたくさんいるはずですが、なかなか名乗り出でては「ない」んです。

2年前、障がい者やその保護者たちの行き場所として、てんだあはうずが発足。白石さんが代表を務め、月に1回、毎回10人ほどのメンバーが集まり、それぞれアイデアを出し合いながら物作りを楽しんでいます。

「てんだあはうずは障がいがある人、ない人どなたでも交流できます。何事も、障がい者だから」といって片付けてしまうと、あるものにフタをされてしまうんです。人はそれぞれに好きなこと、得意なことがあります。ここで、その人が持っている光り輝くものを発見していく...

そういった、個性を發揮できる場所にできたらと思っています。心あたたまる空間で、人がもつ原石を引き出せている白石さんここに集うボランティアのあるみなさんにとって、そんな差し伸べられる優しい手のような存在なのかもしれません。



てんだあはうずのメンバーのかたからいただいた、取材に対するお礼の絵手紙。

ふくちキッズには...

**子どもボランティア育成事業で  
広がる地域のふれあい活動**

テレビゲームなどの普及で、休みの日は外に出ず「過ごす」ことが多い現代の子ともたち。そんな子たちが地域とふれあい、さまざまな体験ができるよう計画されているのが、「子どもボランティア育成事業」です。旧方城町の社会福祉協議会が平成15年5月に立ち上げ、現在では福智町内の小・中・高校生を対象範囲を広げて活動しています。2、3か月に1回、町内の清掃活動、福祉施設の訪問、障がい者との交流や高齢者疑似体験などを行い、今まで延べ616人(毎回20人程度)が参加。ボランティアへの関心を高めています。



行事1回の参加につき1ポイントずつシールをため、5ポイントめると図書カードがもらえる特典があります。現在の登録者数は245人です。

**福智町になって初参加**  
沼口 桃花さん(上野小3年)

ごみ拾い活動に参加しました。ごみを拾ってきれいになったところを見ると、うれしかったです。今まではお母さんが申し込んでいたけど、これからは自分で積極的に参加したいと思います。

**1年生からの常連**  
沼野 翔くん(伊方小3年)

1年生のときからワークキャンプやごみ拾い活動など、いろいろな行事に参加しています。ワークキャンプでは、流しそうめんを初体験しました。学校の友達もいたので楽しかったです。

**ワークキャンプで体験と思い出作りを!**

障がいについての勉強や高齢者疑似体験など、毎日の生活ではなかなかできないことを体験できるワークキャンプ。ほかにもゲームやパーベキューなど、楽しいイベントが盛りだくさんの2日間です。今まで参加したことがない人も、この機会にぜひ参加してみませんか?

**日時** 集合9月16日(日)9時30分  
解散9月17日(祝)15時(1泊2日)  
**場所** 金田ふれあい塾  
**対象** 福智町内の小・中学生(保護者の了解が必要) 申し込み締め切り 9月10日(月)(定員45人) 申し込み方法など詳しくはお問い合わせください。  
問 福智町社会福祉協議会(方城事業所)  
22-3778



毎回、多くの参加があるワークキャンプ。今回はボランティア団体「ユトピア37研究会」に協力してもらい、ソバ作りを体験しました。